

リトルリーグ関東四連盟

関東選手権大会規則

平成28年11月改訂

リトルリーグ関東四連盟連絡協議会

I 大会規則

公益財団法人日本リトルリーグ野球協会公認リトルリーグ競技規則および大会規則による。

II 登録

1. 選手登録は、当該年度4月30日現在12歳11歳以下の男女とする。(4月生まれの13歳の選手を認める)
秋季大会は6年生以下とする。
マイナー選手権大会は、学年を採用して、4年・3年に限定する。
各連盟で承認された混成チームを認め、全て「連合リーグ」と称する。
選手は9名以上20名までの連番とする。指導者は監督1名コーチ2名以内の成人とする。
2. 登録は、各連盟規定の用紙を使用し、当該連盟の承認を受け大会本部に提出する。

III 服装

1. 選手は全員統一した服装を着用し、ユニホームの胸にリーグ名の表示のあるものに限る。
白のアンダーシャツは認めない。(但し、連合リーグは混成ユニホームでも良い)
2. 監督・コーチの上着は、白の襟付きシャツ、ズボンは白またはグレーで統一したものを着用する。
監督・コーチの帽子は、選手と同じものまたは白で統一したものを着用する。

IV 用具

1. 捕手は試合および練習中も公認のヘルメット(耳カバー付)、プロテクター(ロングタイプまたはショートタイプも可)、マスク(スロートガードのどあて付)、ファウルカップを着用しなければならない。
2. 非木製バットは、BPF1.15の印字表記があるものを使用すること。
3. バットリング、マスコットバット、鉄棒、メガホンのベンチ持ち込みを禁止する。
4. 野球用手袋、リストバンドの使用を許可する。但し、派手なものは好ましくない。なお、投手は使用出来ない。
5. ヘルメットの顎ひもをきちんと着用すること
6. グラブのひもが、必要以上に長いものは認めない。
7. サングラスの使用は、選手のプレイに必要なときは認める。監督・コーチの使用は禁止するが、大会本部が許可をした場合はこの限りではない。
8. 出場選手全員に胸部保護パッドの着用を義務付ける。

V 試合の準備

1. ベンチは組合せ番号の若い番号を一塁側とする。
2. シートノックは後攻より7分間とするが、場合によってはカットする場合もある。
3. 試合前のノックの際、登録選手が不足の場合3名まで補助を認める。
4. 試合前のブルペンでの投球練習を監督・コーチが傍らで見ても良い。

VI 試合の運営

1. 延長戦は9回までとし、9回で決着しない場合はタイブレーク制を採用する。その方法は次のとおり。
 - (1) 攻撃側は一死二、三塁から始める。
 - (2) 打者は9回終了時のオーダーの3番から、走者は三塁が1番打者、二塁が2番打者とする。
 - (3) 投手は9回に登板していた投手が、投手規定に従って引き続き投げる。
 - (4) 11回以降は前イニング終了時の継続打順とし、走者は継続打順の前々位打者が三塁走者、前位打者が二塁走者とする。
2. コールドゲームは4回以降10点差とする。(決勝も含む)
3. 試合が降雨等により続行不可能となった場合、2回終了してない場合再試合とする。
但し、4回表が終了し後攻が勝っているときは成立する。
上記の試合不成立の投手ローテーションはノーゲームとして取り扱う。
4. メンバー交換後、ベンチ内の監督はノック、アピール、選手交代、作戦タイム以外ベンチを離れることは出来ない。なお、投手への指示は監督またはコーチが直接マウンドへ行き指示すること。
このときに捕手を含む内野手を集めてもよい。
5. 攻撃側がタイムをとり、選手に指示する回数は1イニング1回である。
なお、守備側のタイムのとき、攻撃側の監督、コーチが選手に指示する場合は回数に数えない。
但し、守備側の指示より長い時間は認めない。

6. 投手のウォームアップ時に、打者などが打席付近に近づき、タイミングを測る行為を禁止する。
7. 走者やベースコーチなどが捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
もしこのような疑いがあるとき審判員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意を与え止めさせる。
場合によっては監督退場となる。
8. ネット裏または観客席から相手リーグの情報を伝える行為を禁止する。
9. 臨時代走について
 - (1) 打者および走者が、事故で走者になれない場合、臨時代走を認める。なお、代走者は投手と捕手を除く打順の一番遠い選手とする。頭部に投球および送球を受けた場合必ず臨時代走を出すこと。
 - (2) 攻撃が終わっても前記の選手が出場出来ない場合は、選手交代となる。
10. 走者がヘッドスライディングをした場合はアウトになり、ボールデッドになる。
11. ボーク（違反投球）があった場合、打者に実際投球していなくとも、ボークまたは規則違反の投球があった場合は、投球数に加算する。
12. 投手の規則
 - (1) 投手は1日および1試合に投球できるのは春・秋季大会85球、マイナー大会は75球までとする。
 - (2) 20球以下の投球の場合連続した試合に投げられる。但し合計85球または75球まで。（リトル年齢に関係なく）
 - (3) 21球以上投球した投手は、1試合間隔をあければ、投手として出場出来る。
なお、当日2試合に連続登板し、2試合の合計投球数が21球以上になった場合は、1試合空けなければならない。
 - (4) 41球以上の投球を行った投手はその日は捕手を務めてはならない。
 - (5) 1試合に4イニング以上捕手を務めた選手は投手になれない。
13. 振り逃げ

次の場合、打者は走者となる。

(A) 走者が一塁にいないとき、(B) 走者が一塁にいても二死のとき、捕手が第三ストライクと宣告された投球を捕らえなかった場合。

【注1】第三ストライクと宣告されただけで、まだアウトになっていない打者が、気がつかずに、一塁へ向かおうとしなかった場合、その打者は“ホームプレートを囲む土の部分”を出たらただちにアウトが宣告される。

【注2】マイナー大会では振り逃げ規則は適用しない。

VII 監督・コーチの退場

1. 次の場合、大会本部および審判員は監督、コーチ、選手を退場させる。
自軍のベンチおよび応援席の中から、相手リーグおよび審判員に対し暴力、暴言を吐いた場合監督および当該者を退場させる。
2. 審判員の判定および指示に従わない場合、監督および当該者を退場させる。

VIII 補貝リ

1. ベンチ内のプレイについて
 - (1) 常設の正規の球場は競技規則通りである。
 - (2) 仮設のベンチは危険性があるので、ボールデッドとする。
2. 選手からのハーフスイングのリクエストを受ける。
3. 全選手がファウルラインを越えた時に、アピール権は消滅する。
4. 飛球をデッドライン、ホームランライン内で完全捕球したと審判員が認めた場合、選手が捕球後場外に出てもアウトである。
但し、場外で選手が倒れた場合はボールデッドとし、走者に1個の進塁を認める。
5. 監督・コーチがグラウンドに入るときは、コートを脱ぐこと。
6. ホームランを打った選手をたたえるときは、派手にしないこと。
7. 監督がアピール出来るのは打順の誤りと審判員がルール適用を誤ったと思われる時だけである。
8. グラウンド(ベンチを含む)内は禁煙である。また、メガホン等による指示、鳴り物の応援は禁止する。
9. 携帯電話の持ち込み、コーチスボックスの選手のコールDSPレー持参を禁止する。
10. 『全員出場ルール』『スペシャルピンチランナー』は適用しない。
11. ベースコーチの大人もヘルメットの着用が望ましい。
12. 全選手に対して胸部保護パッドの着用を義務づける。(2008年秋季関東選手権大会より)
13. 当大会は、日程上降雨・日没等によるサスペンデットを適用する。(3回以降適用)
なお、各グラウンドにAEDを備え付けることが望ましい。
その他については一部を除いて、全国選抜大会規則に準ずる。